

第 69 回日本生殖医学会学術講演会

0-139

愛知, 2024. 11. 14-15

タイムラプス培養を用いた 3 日目胚の iDAScore ver.2 と従来評価指標の相関分析

佐藤学^{1,2} 中岡義晴¹ 森本義晴²

¹ 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック ² 医療法人三慧会 HORAC グランフロント

大阪クリニック

目的

当院ではタイムラプス培養を導入し、第一および第二卵割が正常な場合、優良胚（S 評価）として分割胚評価の第一指標としている。また、細胞数評価（3 日目胚で 8 細胞以上か否か）を第二指標としている。iDAScore ver.2（iDA2）を導入し、AI 評価によるスコアが分割期でも算出可能となったため、その有用性を確認するために従来指標との関係性を調べた。

方法

2024 年 1 月から 4 月までに同意を得て採卵し、Day3 にて iDA2 を取得した 204 症例、906 個の胚を対象とした（平均年齢：36.2±4.7 歳、S 評価割合：46.2%、8 細胞以上割合：55.8%）。iDA2 を説明変数として S 評価か否か、8 細胞以上か否かを目的変数としてロジスティック回帰分析を行った。また、妻年齢と iDA2 の相関関係をピアソン相関係数で解析した。

結果

iDA2 と S 評価の相関はオッズ比 1.62 (95%信頼区間：1.48-1.78、P 値=4.1E-24) であり、iDA2 と 8 細胞以上か否かの相関はオッズ比 1.41 (95%信頼区間：1.29-1.55、P 値=1.3E-13) で、iDA2 と従来評価の間に有意な正の相関を認めた。妻年齢と iDA2 の相関関係は認められなかった。

考察

iDA2 は従来評価 (S 評価および細胞数評価) と有意な正の相関を示した。特に、S 評価に対するオッズ比が 1.62 と高く、iDA2 が S 評価に与える影響が大きいことが示された。iDA2 は胚評価において有用な指標となる可能性が示唆される。一方で、顕微鏡観察でも可能な細胞数評価よりもタイムラプス観察による S 評価の方が有用な評価項目であることが示唆された。